

財団設立までのあゆみ
避難研究所(～1981)

財団設立30周年記念誌

30th

Commemorative magazine

避難研究所

年 月	主なできごと
1923年 9月	簗野次郎(小学校6年生)関東大震災で被災
1970年頃	簗野次郎・繁親子が中心となって、火災・地震からいのちを守る研究と普及に没頭する 簗野次郎は、ユニークな防災研究家として次第にマスコミにも知られるようになる
1974年 2月	全国発明工夫コンクール「防煙火救命衣」入選
	 <p>防煙火救命衣</p>
1975年	東京消防庁の機関誌「東京消防」に「火災や震災を恐れるみなさんへの提案」を5カ月にわたり連載、これにより味岡健二氏の知遇を得る
1976年	NHK帯広放送局で簗野次郎が番組出演した際、「避難研究所」所長として紹介される 以後、財団発足までこの名称を使う
	  <p>NHK帯広放送局の取材</p>
	セロファンが耐熱性に優れていることから、市販のセロファン(90cm×100cm)で手製の防煙フードの作り方を普及 また、ポリエチレン袋5枚で作る初期消火用水袋の作り方も併せて講演会などで指導(現在の「けむりフード」と「投てき水パック」の原型となる)

1977年

事務所の塀にクニトシロウ氏のイラストで避難や初期消火の方法を描き、マスコミにも大きく取り上げられる



事務所塀に描かれた防災ワンポイント

1978年

「毎日夫人」(毎日新聞社発行)で「親子防災教室」(「まんが避難学入門」の原型)が200万部発行される

その後避難研究所から「まんが避難学入門」火災編、地震編を相次いで発行



まんが避難学入門

宮城県沖地震でクローズアップされた、ライフライン停止の問題への研究を始める
飲料水の保存方法や、食用油を用いた灯り作り、空き缶による炊飯用コンロ作りなど、次々と発案・研究して普及につとめる



炊飯用コンロ



安全灯

1980年

火災編・地震編を合本・改訂して「新まんが避難学入門」を発行

味岡健二氏が中心となって、財団法人設立の準備が始まる

設立発起人は、味岡健二氏、大川鶴二氏、川島四郎氏、菊竹清訓氏、菅原進一氏、高山英華氏、中田金市氏、難波桂芳氏、村上處直氏、柳田邦男氏、籾野次郎の計11名